

## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	同志社大学	整理番号	L03
プログラム名称	グローバル・リソース・マネジメント		
プログラム責任者	和田 元	プログラム コーディネーター	内藤 正典

### ◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

#### 〔総括評価〕

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

#### 〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、最も困難な状況にある国の人々が直面する地球規模の課題に取り組むグローバルリーダーを育成するというビジョンを実現するため、当初の理念・目的に沿った体制の構築と各種取組への努力・工夫が粘り強く積み上げられていることは評価できる。育成しようとするグローバルリーダー像も明確であり、文理融合型教育を掲げ、多文化共生に関する知識だけでなく現場で実効的に生かすことのできる技能の習得を目指す意欲的なプログラムであることは高く評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、文系及び理系の学生が共修する「グローバルリソースマネジメント（GRM）コモン演習」、「GRM オンサイト実習」などの共通科目とサブ・メジャー科目を備えたカリキュラムが体系的に整備されており、学生が俯瞰的・汎用的能力を身に付けることが期待される。また、専任教員となるキャリアコーディネーターを2名雇用し、学生に対して手厚いキャリア支援が行われている点も評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導體制の整備については、GRM レジデント・メンターなど独自のシステムを導入し、支援体制が整備されている。学生のニーズに配慮し、開講されていない少数言語科目については学外から講師を招聘するなどの教育環境の整備を行うなど、きめ細かい工夫がなされていることも評価できる。

優秀な学生の獲得については、上記のようなきめ細かい指導體制と GRM 特別奨励金制度により、優秀な学生を獲得することに成功していると考えられるが、定員充足に向けて引き続き努力が求められる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、Qualifying Examination など学位の質を保証する評価体制が構築されている。

事業の定着・発展については、支援期間終了後を見据えて、全学的に本プログラムを常置化する方向で既に計画されているところが評価できる。今後は、継続のための資金確保と並行して、プログラムが掲げる理念や教育内容が大学全体で共有され、プログラム担当教員だけでなく担当外の教員からの積極的な協力を得ることが、持続的にこのプログラムを定着・発展させる鍵であり、粘り強い努力が求められる。